第 64号
（発行所）
真宗大谷派
松岡山 廣讃寺
中村区城屋敷町3-30
TEL(052)411-5301
FAX(052)411-5341
携帯 090-1568-4623
〈E-mail〉
matsuoka@kosanji.or.jp

われもまた不治の病身なり（老病死について）

M・N

去る六月十六日、前住職と前坊守の年忌法要が厳（おごそ）かに勤められた。それに先立ち、同朋大学大学院教授で生命倫理学者の田代俊孝先生の法話を拝聴した。

講題は「われもまた不治の病身なり」（老病死について）

最近はガンの発症率が高くなっているとのこと。その末期における治療方法もやがて来るであろう終末期まで、患者が安穏な気持ちで迎えられるようホスピス（キリスト教用語）とかビハーラ（仏教用語）と称して患者を臨終まで介護するケースがあるとのこと。

本来、人がオギャーと生まれ一生を終えるまでの現世を、仏教では不可思議な世界と称し、何一つ定まったものはなく、すべて偶然によるものとのこと。その他、人としての生きざまについて、正信偈の一節や歎異抄、身近な生活習慣を例に挙げ、わかりやすく解説され有り難かった。

人は皆、確実に老い病気にもなる。そして最終的に死を迎える。特にガンなどの病にかかり「余命幾ばく」と悟ったとき、人は何を思い、何を考えるのか。

大谷大学や岡山大学の教授を勤められた著名な女性教授の手記を紹介された時、教授の死生観がなんと沈着冷静に表現されていたことに少なからず衝撃を覚えた。

自分が同じ立場であったなら、はたしてどうであろうか、極めて自信がない。

先生の話を拝聴しながら「四十にして惑わず、五十にして天命を知る、六十にして耳従う、七十にして・・・」「朝に道を聞かば夕べに死すとも可なり」種田山頭火の自由詩「無にはなれても空（くう）にはなれぬ」を思い出していた。

死と真正面に向かい合うにはまだまだ未熟な自分。これからも真宗の教えに触れ、少しでも「らしい」人間になれればと念じた次第。

病老死をみつめて

村上三智雄

六月十六日、前住職と前坊守の法要で田代俊孝師の法話を聞く機会に恵まれた。テーマは「老病死」であったが、ご自身が主催されている終末期医療ケアのビハーラ医療団の活動や、特に末期ガン患者の精神的ケアを通してテーマにせまられた。

バカの壁とかマカロニ症候群や幸福度といった耳慣れない言葉もありましたが、特に印象に残ったことを報告します。

一、世の中は諸行無常である

この言葉はお釈迦様が悟りを得て最初におっしゃられたことで有名ですが、世の中のことは常に変わっていくということです。だから生まれたものはやがて死ぬということも当然です。

ところが終末期を迎えた人は、いつまでも生きたいという欲望が強く、とても「ありのままの自分を素直に受け止める」ことができず、大変に苦しむことがおおいようです。なるほどと思う。

二、高学歴や高収入の人ほど苦しんで死んでいかれます

それは本人や家族を含めて、何事も思い通りになるというアホの壁（自力の物差し）を作り信じて長生きしようと苦しまれる。ところが、農山村の人々は自然の摂理をちゃんと心得てみえるのでしょうか、わりと早く死を受けとめ、静かな最期を迎えられているようです。

科学的医療も延命にはなるが限界があるのです。自力（自分の力で思い通りにしようという思考）の限界と虚しさを知ってほしい。

三、ブータン国の人々は幸福度が世界一である

そのわけは他人と比較しない「自体満足」といって、ありのままの自分をきちんと受けとめられる人が多いという。

名誉や地位、財産など、ことごとく他人と比較して少しでもそれより優れようと欲望をたぎらせ、あくせくする人が少ないという。龍樹・天親の思想が直接に入った所といわれ、インドのカースト制度の生活習慣が少し残っているのではないかと思った。

梅雨の晴れ間の午後は、すごく蒸し暑かったが、平易で時宣（じき）を得た法話を夢中になって聞いているうちに、あっという間に八十分が過ぎていた。かつて前住職に「そう比較するな」とたしなめられたことが懐かしく思います。

前住職の突然の死から二年がたちました。

二年間、何をやってきたのかを振り返り思い出そうとしてもボンヤリとポツリポツリとしか思い出せないのです。

二年の間には御遠忌も勤めましたが、夢の中での出来事のような記憶としか残ってなく、鮮明ではありません。前坊守が亡くなってからのこともハッキリとした記憶がありません。

しかし、前住職が心臓マッサージをされている時、そして救急車に乗って日赤に行き、集中治療室の前で待っているように言われるまでの時のことは断片的ではありますが強烈な記憶として残っています。

おそらく今のことも、目の前のことしかできない状態です。いや、目の前のことでもやることを忘れています。

五里霧中です。迷いのど真ん中にいます。

仏さんから見たら、われわれ皆、迷いの存在です。無明の中を生きています。

このまま迷い、苦悩する日々をいかに仏の教えを聞きながら受け入れるのか。

2年間で、迷う機縁はたくさんいただいた。さらに苦悩も恐怖も孤独感も、そしていつも心が落ち着かない日々を。

これも自我のしわざで「なんでも阿弥陀様におまかせだ」という心境には到底なれないです。底無しです。

話は変わりますが、この2年間、ミスが多く、いろいろとお構いできず、門徒の皆さまにも多大なご無礼をしてしまったことを、どうかお許しください。

廣讃寺　松岡貴志

行事予定

七月　十三日(土) 七時半　同朋委員会・例会
（役員は七時）
十九日(金) 二時～四時　学習会
二十一日(日) 六時　納涼大会（雨天決行）
二十二日(月) 八時　後片付け
二十八日(日) 十時　二十八日講・女人講

納涼大会

人形劇
金魚すくい
輪なげ
ビンゴ大会
などなど…
楽しい催しもの
がいっぱい。

どなたでもご参加ください。

八月　十　日(土) 七時半　同朋委員会・例会
（役員は七時）
十九日(月) 二時～四時　学習会
二十八日(水) 十時　二十八日講・女人講

【20組行事予定】

推進員養成講座　七月　十三日(土) 一時半より
八月二十二日(木)～二十四日(土)　本山上山研修